



答えがある勉強がいかに簡単か

熊本地震で被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。千葉学習塾協同組合でも有志の塾において、ひとまず5月19日までに集まった義援金は日本赤十字社を通じて送ります。当塾に置いてある募金ペットボトルにご協力いただいているみなさん、どうもありがとうございます。今回の地震では本震と思われた激しい揺れが実は余震で、その後に本震がやってきたことが被害を大きくしました。誰もがそんな地震の起こり方を想像できなかったことでしょうか。想定していた対応方法だけではどうしようもないことがたくさんあったことと思います。それでも少しでも被害を少なくしようと自らの判断で状況を切り開いた大勢の人たちがいたことも間違いのないことでしょうか。

最近CMなどでも引っ張りだこの、総統と吉田君の掛け合いが何とも言えない脱力系アニメ「秘密結社鷹の爪団」の生みの親であり、監督・作画・声優もこなすFROGMANさんがインタビューに答えてこんなことを言っています。「何をするにも、いかに教養が大切か」また「社会では正解のないことばかり。答えがある勉強がいかに楽で簡単か」と。仕事でも普段の生活でも、あらかじめ答えが決まっていればそれを見つければ、すべてうまくいくなどということはありません。その時々で状況を判断して考え、小さな決断を積み重ねていくことが社会生活というものでしょう。そして状況を判断する時の土台となるものが教養だと言えるでしょう。逆に最も望ましくないのは、考えることを放棄して何かにすぐ頼ってしまうこと。その場しのぎにはなっても、それで自分が納得できるのでしょうか。

ではなぜ正解のある勉強をするのか。それは教養を身につけるためです。判断力を養い、判断したことを実行するために必要な表現力を磨くためです。仮に正解としたものに行き着く過程を探すことに慣れるためです。探し方に慣れておけば、正解のない本当の意味での問題に遭遇した時にも、簡単にあきらめたりしないですみます。幸いにも日本の小中高の勉強内容は、少しずつ段階を踏んで慣れるようにうまくできています。これを利用しない手はないでしょう！